

茨木市議会議員

あびこ浩子

ゆめ・みらい通信



連絡先：（あびこ浩子事務所）茨木市中穂積3丁目1-35

TEL&FAX 072-601-0569

ウェブサイト：<http://www.hcn.zaq.ne.jp/abiko-h/>

.....
〈あびこ浩子の実感〉
普通の主婦が議員になったら、不思議なことがいっぱいあった！

●高齢者や子どもたち、障がいを持つ人、病気をもつ人など弱い立場の人たちが安心して暮らせる街にしよう！それは誰にでも優しいまちだから。子育てしながら街に出ようよ！街に出られる社会にしよう！子育て支援で社会を変えよう！

.....
あびこ浩子（安孫子浩子）

- ◆1961年生まれ。玉櫛小・南中卒業／1980大阪府立千里高校卒業／1984関西大学文学部卒業／2008大阪市立大学大学院創造都市研究科共生社会研究分野修士課程修了、大学時代銭原キャンパスでカウンセラーとして活動
- ◆1984高槻市立第7中学校教諭／1987茨木市立三島中学校へ転任1990退職／2000沢池幼稚園PTA会長／2002穂積小PTA会長／2006茨木市PTA協議会会長／2004NPO法人Chacha-House 代表理事
- ◆穂積小学校区青少年健全育成運動協議会会長／NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事／茨木市議会議員／夫、長女（大2）・次女（高2）・長男（中3）の5人家族

茨木市議会議員 あびこ浩子

議員活動再始動！！



皆さまご支援本当にありがとうございます！！

みなさま、こんにちは！あびこ浩子です。2009年1月の茨木市議会議員選挙で当選させて頂くことができました。

3695票の重みをずっしりと抱えながらこれからの4年間をみなさまの期待にお応えできるよう頑張ります。

2008年4月の茨木市議会議員補欠選挙から8カ月、初めてづくしでわからないことばかりの中で、それでも、生活する私たちの思いを届けたいと懸命に訴え続けた8カ月の議員活動。そして更に生活者である私たちの声を届け続けたいと2期目に挑みました。

茨木市に暮らして40年あまり。子どもたち3人も茨木生まれの茨木育ち。多くの皆さまのお力をお借りしての子育て、そしてPTA活動、地域活動を続けてきました。子どもの進学時や反抗期、困ったときに結局最後に助けてもらったのは身近なご近所のお友達、ご近所の皆さまでした。私はご近所で支えあえる茨木のまちが大好きです。子どもたちにとっても安心して暮らし続けたいと思ってもらえるまちにと願わずにはいられません！

街頭に立っていると、車いすで通勤されている方、点字ブロックを利用して電車へ乗っていかれる方が多くおられること、信号の変わり目までに道路を渡りきるのが大変な高齢者の方々や、幼い子どもを自転車やベビーカーにのせて段差に引っかかりながら移動するお母さんたち、いろんな方々にお会いします。私たちの暮らしを第一に考える政治、考える社会にできるよう全力でがんばります。これからもよろしくお願ひいたします。



当選証書受け取りました。

3月定例議会報告



穂積コミセン、餅つきにて



穂積青健協「冬の遊び大会」



平成21年度茨木市一般会計予算

742億円（前年度6月補正予算後751億円）9.9億円減

予算総括（一般・特別・水道会計）1369億5075万円

歳入の予測が前年度比で34億円の減収を見込みでスタートした21年度予算編成。H20年度秋から急速に襲ってきたアメリカの金融危機によりH20年度には財政調整基金を18億円繰り出したために基金の残高が40億円から22億円に減少しました。

そこでは高齢者、母子家庭、障がいを持つ方への支援なども見直しされ、優先順位の付け方に市の姿勢が見える形となりました。何を我慢し、何を残すか生活を守る政策を生かす観点が必要と考えています。

<あびこ浩子の実感>

普通の主婦が議員になったら、不思議なことがいっぱいあった！

- 高齢者や子どもたち、障がいを持つ人、病気をもつひとなど弱い立場の人たちが安心して暮らせる街にしよう！それは誰にでも優しいまちだから
- 子育てしながら街に出ようよ！街に出られる社会にしよう！子育て支援で社会を変えよう！

妊婦健診14回分の補助制度発足

妊婦健診の受診が保険が利かないこともあり、一度も検診を受けずに出産に臨む妊婦の存在が問題になり、また、健診を受けないことでリスクの高い出産になることもあることが社会問題となっていました。妊婦の病院たらい回し事件が次々と発覚して死亡者まで出てしまう事態に国も制度を変えて対応することになりました。新聞報道では14回分すべてが無料になるような書き方をされていましたが、実際にはそうではなく、これまで5回分を地方交付税で

国100%で予算が付けられていたところ（茨木市は3回実施）に加えて22年度末までの限定で国から残りの9回分を国が半額で市町村が半額を出して実施するという実はとても継続性の低い制度で下りてきています。

茨木市では里帰り出産、既に母子手帳交付済みの方にも回数券を追加発行するなど、配慮をしたうえで、1回3000円のチケット制度として、国の補助がなくなっても継続していけるような制度に一步踏み出しました。

第3号

これは問題！！

学校園施設利用料徴収について

昭和39年にすでに学校園施設利用に
関しての条例が通っており、利用する
には料金を払うシステムはすでに出来
上がっていたのですが、それをこれま
では減免措置として、無料で開放され
てきました。

しかし今回の財政状況の悪化から、取
れるところからは取ろうという姿勢
で、いきなり4月から利用料徴収とな
りました。公民館講座や青少年健全育
成など子どもたちに係る社会体育の面
でも影響を受けることとなりました。
市民の皆様へ負担を願うには段取りと
いうものがあり、市の財政事情への理
解を得て、負担増への同意を得るため
には、まずはきちんと説明をし、負担

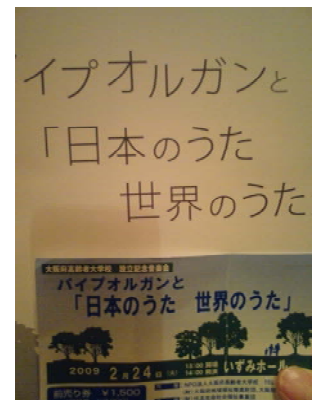
するためにはそれぞれの団体が会費を集め
るなどしないといけなくなるので、そのた
めの態勢作りをする期間を設ける必要性を
つくづく感じた今回の提案です。

このことは昨年放課後子どもプランの
導入時に学童保育での「おやつ」の取り扱
いについて、3月末に通知文が一枚下ろさ
れてきた時の経過の二の舞のように感じて
しまいました。

社会体育関係で子供たちの活動を支えて
頂いている皆様が子どもたちのために運動
を展開され多くの署名を集められました。
このことを重く受け止め、茨木市での子ど
もたちの活動をどう支えるのかを改めて考
えていきたいと思っています。



大阪府高齢者大学NP
O結成記念コンサート
いずみホールにて



3月民生常任委員会報告

高齢者の家賃補助制度、補助額半額へ（月5千円）

今年度は民生常任委員会の委員として出席すること
になりました。民生常任委員会では福祉に関することを中
心に、市民生活、国民健康保険・介護保険・後期高齢者
医療保険・市民活動など多分野にわたって議論をしま
す。皆様の身近な問題が多く取り上げられる場でもある
はずです。どんどんとご意見をいただけたらと思ってい
ます。

いくつかの私の質問のうちから、高齢者家賃助成制度
について報告します。

大阪府下では茨木市を含めて3市しか実施していない
制度ですが、私は優れた制度は誇りに思いこそすれ、他
市にあまり例がないから削っても良いという行政の説明
は全く理解できません。大阪府下で平等を考えたら
やっているところが少ないからそれは贅沢だと言いたい
ようです。茨木市での取組が素晴らしければ他市へ広げ

たり、是非茨木市に引っ越して来ていただきたい
くらいです。

この制度は単身高齢者なら年収220万円までで民間
賃貸住宅の家賃が月額5万円までの方にその3分の
1最大1万円を補助するという制度です。実はこの
制度を利用されている高齢者の方々の年収は100
万円までの方が多く月額4万円以下の年金もしくは
無年金の方がこの制度を利用して頑張っておられ
るのです。この方々の5千円の減額の重みは、計り
知れないものがあると想像します。食べることは
やめられないので入浴を減らすか、電気を使わな
いか…考えただけで生活に即影響が出るのがわか
ります。個人給付を見直す、そのことに一概に反
対しませんが、生活を苦しくする見直しは再検討
されるべきだと思います。

お互いさまと思える茨木に！
生活者の視点を政治に！



あびこ浩子事務所

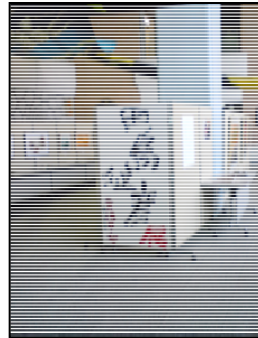
茨木市中穂積3丁目1-35

電話&FAX 072(601)0569

Email: abiko-h@hcn.zaq.ne.jp

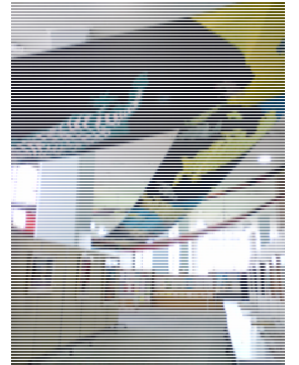
【自宅】茨木市穂積台12-503

TEL 072-624-5480



田島征彦展

中央図書館にて



ホームページもご覧ください

<http://www.hcn.zaq.ne.jp/abiko-h/>

3青少年センター廃止条例に関して 条例案取り下げとこれからについて思うこと

皆さんは茨木市に青少年センターが4つあるのをご存じでしょうか。

私が子どもの頃、「児童会館」と呼んでいた現在の上中条青少年センターと総持寺、豊川、沢良萱の3青少年センターがあります。

子どもたちの生涯学習の拠点として、多くの小中高、そして大学生が利用しています。我が子もバンド活動に音楽室を利用させていただいています。一般のスタジオはあまりに高価で高校生のおこづかいでは借りられないからです。様々な活動に拠点があるということは、活動をベースで支えてくれます。それは地域の公民館しかり、コミセンしかり。課題別のWAMや生涯学習センターきらめきでもそうでしょう。

しかし今、予算削減の観点から4つのうち、3つの青

少年センターを廃止しようとしています。なぜ子どもたちの施設を廃止のターゲットにするのでしょうか。そこでは障がいを持つ子どもたちが放課後の居場所として地域交流する場として利用もしていました。そんな彼らも含めてどこに行けというのでしょうか？青少年活動をどう考えているのか、その点の見解は全く行政から聞かれませんでした。ただ予算削減との返事です。

3月議会でこの条例改正案は大阪府との補助金の関係で取り下げられました。新聞報道を見られた方も多いと思います。ただ6月か9月か近いうちに再度議会で提案するとの市長の意見に予算削減なら廃止ではなく予算を下げるという方法や直営でなく民間にゆだねる方法もあるという意見になぜ耳を貸さないのか大いに疑問です。

毎週火曜日朝7:30~8:30
JR茨木駅西口で街頭報告会を実施しています！
公務等の関係で無理な時もありますが、見かけたら声をかけて下さいね！！